

全校の皆さん、こんにちは。

皆さんも知っているとおおり、今日は「防災の日」です。今から約100年前の9月1日、関東大震災という災害が起こり、10万人以上の方が亡くなりました。この日にあわせて、災害に対する知識や対応を考え、いつ災害が起こっても行動できる準備をする日となりました。

さて、「防災」とは、災害を防ぐという意味ですが、皆さんの周りにはどんな災害があるでしょうか。近くの人と話してみましょう。

どんな災害がありましたか？ 災害には、大きく分けて2つあります。人が起こす災害「人災」と、自然が起こす「天災」があります。

人災には、火事はもちろんのこと、ビルが倒れたり、電車が脱線事故を起こしたり、原子力発電所の事故も含まれます。今ウクライナで起こっている戦争も人災です。多くの方が亡くなっています。この人災は、人々の知恵や努力で少なくしたりなくしたりすることができます。

一方、自然の災害「天災」は、地震、津波、洪水、土砂崩れ、大雪、台風などの災害のことを言います。天災を防ごうと人々は工夫していますが、自然には勝てません。また、急に起こるのも天災の特徴です。なので、このような天災がいつどこで起きても命を守ることができるように備えておくことが大切なのです。

今日は、各クラス毎で、様々な場所での行動を考えます。自分の頭でしっかりと考えてください。今日、自分で考えることができたならば、実際に災害が起こったとしても、どうすれば命を守ることができるのか考えて行動することができるでしょう。

人の話や情報をよく聞き、考え、判断して行動できるように、自分から学びましょう。

終わります。